

## ビジランスを草の根ではなく本道に 浜 六郎 ( JIP 代表 )

この3日間、非常にたくさんの方々に参加していただきました。当初はせいぜい200人を予定していましたが、多くの方々からのお申し込みで急遽会場を変更し、ゲストとスタッフを合わせると513人の参加を得ました。

われわれTIP/JIPがやろうとしているこういう問題がみなさんの大きな関心と呼んだということに、今後、かっちりとやっていかなくてはならないと非常に責任を感じております。私は脳天気なほうで、あまり深刻には考えないほうです。今後、こういう活動は発展していくと思います。懇親会で草の根運動というのが大事だとのスピーチがありましたが、ちょっと待ってくれと申しました。励ましていただくのはうれしいですが、きちんとした医薬品の評価や、適切な薬を普及させることなど、こういう活動がメジャーなものに、日本の一般の認識にならなくてはいけない、単に草の根運動として終わらせるわけにはいかない。今、ここでも同じことを訴えたいと思います。

この点については、私は非常に楽天的に考えております。科学の進め方も、患者さんへのアプローチに関しましても、こういう進め方がイギリスをはじめとする世界的な大きな流れになりつつあります。このような現状を考えますと、これは決して草の根ではない、将来必ずこういう考え方が日本でも一般的になると思います。現在目の前にある問題のある薬剤を一つひとつ点検して、悪いものは悪い、良いものは良いときちんとした整理をしていかないといけない。

もちろん専門家が努力しなくてはいけないのですが、是非とも一般の方、消費者、患者さんの声を反映させていただいて、われわれの力にしていきたいと思います。

このセミナーはTIP、JIPが主催し、JANCOC、日本薬剤疫学研究会（現在、日本薬剤疫学会）と私の母校であります阪大公衆衛生学教室が共催しました。公衆衛生学教室の多田羅教授のご尽力もありまして、この大きな会場を使うことが出来ました。今日、多田羅教授はお見えではないのですが、ここでお礼を申し上げたいと思います。

またこのように大きな会ができましたのは、ボランティアにたくさんの方々の協力があってのことです。（スタッフ紹介）実は30人ほどいるのですが、今日は勤務がなくて来ていない人もいます。全員仕事を抱えながらの準備でいろいろ行き届かない点や不慣れでトラブルもあったと思いますが、反省材料として今後役に立たいと思います。

みなさん、ありがとうございました。